

看護の核となる実践能力：看護師が理論的な志向と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力（2016年 日看協）

組織的役割遂行能力：看護チームなどの最小組織から看護師、医療施設、地域、国内での看護職能団体の中での役割遂行能力（2003年 日看協）

自己教育・研究能力：技術専門職としての事故の技能を高め、さらに看護への科学的探究を行う能力（2003年 日看協）

		Pre (看護学生)	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベルの定義		看護基礎教育で学習した範囲内の知識・技術で実践する	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手には身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面があることを前提に関わることができる。	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■看護基礎教育機関で学習すべき、人体の構造と機能の学習内容を理解している。たとえば、看護師国家試験の問題に再チャレンジする等によって、看護基礎教育機関での学習内容を復習する。 ■看護の対象には、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面があることを前提に関わることができる。たとえば、実習記録を見直し、対象をアセスメントしている内容から自らの特徴を客観視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■指導を受けながら、診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアル(宗教・幸福感・癒やし・QOLなど)な側面から必要な情報収集をすることができる。 ■患者の状況から緊急度をとらえ、指導をうけながら緊急度に応じた観察をし、必要な情報を得る。 ■指導を受けながら患者の状態に合わせながら基本的なフィジカルアセスメントを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自立して入院時から診療記録上の情報を確認し、患者の訴えや観察をもとに身体的、精神的、社会的、スピリチュアル(宗教・幸福感・癒やし・QOLなど)な側面から必要な情報を収集できる。 ■診療記録など決められた枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行うことができる。 ■自立して患者と関わり、情報収集をもとに、顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアル(宗教・幸福感・癒やし・QOLなど)な側面に関連づけて患者の課題をとらえる。 ■自立して患者の状態に合わせてながらフィジカルアセスメントを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て患者にとって必要な情報を収集できる。 ■情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアル(宗教・幸福感・癒やし・QOLなど)な側面から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえている。 ■患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、必要に応じて観察項目を追加し、対応できる。 ■患者の状態に合わせて、体内で起きている現象を考慮してフィジカルアセスメントを正確に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集できる。 ■患者の状況の原因を予測し、体内で起きている現象を意図的に観察しながらフィジカルアセスメントを正確に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる。 ■患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集して患者と家族(または患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多角的な側面からニーズをとらえることができる。 ■地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図ることができる。 ■あらゆる状況における患者のフィジカルアセスメントを正確に行うことができる。
ケアする力	【レベル毎の目標】	基本的な看護技術の流れがイメージできる。	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■新人看護職員研修ガイドラインの項目を把握し、看護基礎教育機関で活用した文献等を参考に、核技術の一般的な流れを思い出す手がかりを得ている。 ■教科書、論文、雑誌など複数の情報源から看護実践に必要な知識を得る習慣を身につける姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■指導を受けながら、患者に対して看護手順に沿ったケアを実施することができる。 ■患者に対して基本的な生活行動の援助を行う。重症患者や医療依存度の高い患者については、指導を受けて実施することができる。 ■基本的な看護技術については、新人看護職員研修ガイドラインにおける、看護技術についての到達目標が達成できる。 ■急変時には、対応の場において、流れを把握し、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践することができる。 ■指導を受けながら患者の看護計画の立案・評価・修正ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の既往歴、年齢、性別、社会的役割を考慮して、標準的な看護計画を追加・変更し、自立してケアを実践することができる。重症患者や医療依存度の高い患者に対して自立してケアを実践することができる。 ■患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得て、状況に応じた援助を実践する。観察して患者の状態を把握し、必要に応じて時間調整や疼痛コントロールを実践してからケアを行うことができる。 ■急変時には、指示されたケアを責任をもって実践することができる。 ■自立して患者の看護計画の立案・評価・修正ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の個性に合わせた適切なケアを実施することができる。 ■患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる。 ■患者のニーズを的確にとらえることで、複数の患者を受けもつ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践することができる。 ■急変時には落ち着いて対応し、家族(または患者を取り巻く人々)等に配慮することができる。 ■チーム内(複数の患者)の看護計画の立案・評価・修正ができる。また、メンバーに指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるために幅広い選択肢からの提案やケアの実践をすることができる。 ■患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる。患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明する。その際、患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案する。 ■急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる。 ■患者もしくは家族の本質的な問題を予測しながら看護計画を立案・評価・修正することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをすることができる。 ■コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる。 ■ケアの開発のための努力を継続して行うことができる。 ■患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。 ■急変時には、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者及び家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備がとれる。 ■看護計画において指導的役割がとれる。

協働する力	【レベル毎の目標】 対象を取り巻く関係者との調整の必要性を理解している。	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■院内にいる職種を把握し、それぞれの職種の一般的な仕事内容がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■助言を受け、PNSのメンバーの役割を実施できる。 ■先輩看護師や上司、医師に患者の状態を常に報告・連絡・相談ができる（SBARを用いて）。 ■助言を受け、業務上必要な連絡や報告を行うことができる。 ■疑問点についてリーダーに相談できる。 ■助言を受け、カンファレンスで自分の意見を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■PNSのパートナーとしての役割を把握し、他のメンバーに協力して行動できる。 ■先輩看護師や上司、医師に患者の個性を考慮し、報告・連絡・相談ができる（SBARを用いて）。 ■自分自身の考え方の特徴を知り、自己の不足を補う努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■チームリーダーの仕事を理解し、支援を受けながらリーダー業務を遂行できる。 ■上司や医師に患者の変化の予測を考慮しながら、報告・連絡・相談ができる（SBARを用いて）。 ■自分の感情をコントロールし、他のメンバーに協力・援助することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■チームメンバーの自己目標に関して指導・支援ができる。 ■上司や医師に患者の変化の予測・予防を考慮しながら報告・連絡・相談できる（SBARを用いて）。 ■リーダー業務が遂行できる。 ■他のチームメンバーがリーダーの時は支援し、チームワークを保つような行動ができる。 ■他職種チーム運営における問題について、解決のための行動ができる。 ■関連部門と連携を取り、必要な調整を行うことができる。
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】 自己と他者の視点が違うことを理解し、他者の認識を知る手がかりを得ようと関わる。	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ■傾聴する・共感する・受けとめるなどの人間関係の基本姿勢を持っている。 ■患者家族から受けた質問や依頼に対し、助言を受け、対応できる。 ■患者を尊重した態度で関わるができる。 ■プライバシーを保護して患者情報や記録物を取り扱う事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者家族の個性性を尊重した対人関係を築き、対応することができる ■患者の個人情報を適切に保護して活動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ■自己の看護観を持ち、患者を尊重し、公平で変わらない態度で接することができる。 ■「看護者の倫理綱領」に基づいて、ケアの提供における倫理上の問題を明確にできる。 ■自己の行動をコントロールし、他のメンバーに協力・援助することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■一貫した看護観を持ち、患者にとって良い関わりをもつことができる。 ■患者～看護師～家族等に発生している倫理的ジレンマを把握し調整できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■明確な看護観をもち、患者のニーズを感得して適切な関わりを実施できる。 ■患者・家族・地域関係者と在宅～入院において継続した信頼関係を築ける。 患者・職員間に発生している問題状況を明確にし、解決に向けてアプローチができる。
組織的役割遂行能力	【目標】 法人の理念、病院の基本方針、看護部の概要について理解し、看護学生としてふさわしい行動ができる。	法人の理念、病院の基本方針、看護部の概要をふまえて行動できる。 責任の最も軽い、難易度も最も低い、軽微な組織の役割を果たす。看護チームでは、フォロアやチームメンバーの役割、病棟での係としては簡単なルーチンの係の役割を遂行できる。	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を順守した行動がとれる。日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。	所属する職場で、組織的役割が遂行できる。看護チームでは、チームリーダーやコーディネーターの役割、病棟での係としては、創造的能力を要求される係の役割を遂行できる。	所属する職場で、特殊なまたは専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割（学生指導、業務改善係、学習会係、教育委員、リスクマネージメント係など）を遂行できる。看護単位の課題の明確化ができる。	所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。看護単位の課題に対し、具体的解決を図れる。
自己教育・研究能力	【目標】 看護の基礎力を身につけるため、講義・演習・実習等においても積極的に取り組むことができる。	自己の課題を指導によって発見し、主体的な学習に取り組むことができる。	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる。	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる。	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究に取り組む、後輩のロールモデルになることができる。	単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる。